

2016年1月4日

三菱樹脂社長 姥貝 卓美 2016年 年頭挨拶（要旨）

三菱樹脂株式会社

昨年の日本経済は、景気回復の基調は大きく崩れないまでも消費の回復に対する確信が持てないもどかしさの中で終わった1年だった。今年は好循環を経済活動の中に確実に芽生えさせ活性化できるかが問われる年であり、個人消費・企業の設備投資が着実に増加していくことが期待されている。一方、中国経済の減速感、原油など資源価格への下方調整トレンドと新興国経済の下振れリスク、EU経済圏の不透明さ、そして米国金融政策の行方など数多くのリスクファクターが存在する。変化は必ず起こる。三菱樹脂グループ員一人ひとりにとって大事なことは、日本・アジア・世界経済状況や事業環境が大きく変化していく中で、想定されうる様々なリスクを出来るだけ最小化しながら事業運営し、前進することが重要である。

昨年を振り返ると、インドネシアにおける透湿性フィルムの製造ライン、クオドラント社のスロバキアの工場、中国無錫でのポリエステルフィルムコーティング工場などが竣工した。今年は将来の成長に寄与するこれらの事業を健全に運営していくことが大切だ。現行の中期経営計画「APTSIS15・Plus」期間中に新設された海外グループ会社の中には、スムーズな立ち上げに手間取り、苦勞している事業もある。それらは様々なリスクを覚悟して進出した訳であり、腹を括って現地の市場に早く受け入れられるように製造・販売が一丸となって強力に事業を推し進めていく必要がある。

現中期経営計画も最後の3ヵ月を残すのみとなった。この4月には、新中期経営計画「APTSIS20・Plus」がスタートする。2015年度上期の業績は、前年比増収・増益で着地することができ、スプレッドの適正維持、在庫の適正化、生産効率の改善、固定費節減などが収益を支える力となっている。その後の業績も概ね順調に推移しており、事業体質改善に向けた皆さんの努力が一つひとつ蓄積され、結実してきている結果であり、改めて感謝したい。人間の体は普段からしっかり鍛えておくことで、多少の急な坂道も登り切ることができる。事業活動も然り。事業構造を鍛え、環境の変化をタイムリーに感ずるアンテナを研ぎ澄ましておけば進むべき方向が判断できるようになる。変化に対応できる応用力は基本問題を解決できる基礎力があってこそ初めて本当の実力と言える。

昨年12月、三菱ケミカルホールディングスグループの化学系3社の統合について発表が行われた。2017年4月の新社誕生に向け、今年は様々な準備作業が行われることになるが、当社グループの各事業は、新会社の組織の中で、それぞれが重要な事業として活動していくことが期待されている。新社誕生をチャンスと捉え、確実に事業を推し進めていきたい。

今年の干支は「丙申」。形が明らかになり、実が固まっていく状態という意味がある。今年2月、三菱樹脂は1946年の長浜ゴム工業の発足から70周年を迎える。この節目の年に、皆さんのこれまでの頑張りが具体的な成果として表れることを信じている。元気よく、健康で明るく頑張っていこう。

以上

本件に関するお問合せ先
(株) 三菱ケミカルホールディングス 広報・IR室 電話：03-6748-7140